

## 第 194 回森で遊ぶ会「船越堤公園観察会」実施報告書

1. 実施日時 令和5年3月27日（月）9：30～11：30

2. 実施場所 静岡市・船越堤公園

3. 参加インストラクター会員

担当： 大石 中川

アシスト会員：青野、越智、小久保、小嶋、佐野、杉山、高橋、矢下

4. 一般会員の参加 合計20名

5. 実施状況

今年は桜の開花が例年より早く、静岡市では3月19日に開花が発表された。観察会の予定日（3月27日）にはちょうど満開に近い見ごろになるであろうと予想され、駐車場が一杯になることが予想された。この為、参加者には早めの入場か公共交通機関の利用を事前をお願いした。幸い当日は混雑も心配した程ではなく、皆さん無事に入園することが出来た。

見事に咲いたソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、シダレザクラ等の桜を見ることが出来た。そして、この時期にしか見られない、雄花の垂れ下がったクヌギやコナラ、イヌシデ、それにアカシデの雄花と雌花を観察できた。また、普段なかなか気づかないケヤキの雄花も見ることが出来た。クスノキは新しい葉への移り替わりが進んでいた。地上では、水仙、スノーフレイク、ハナニラ、それにスマシロなどの草花が咲いていた。参加者は20人と比較的少なかったが、インストラクターが10人参加したので、少人数グループで5班を編成できた。以下、班ごとに園内散策の様子を報告をする。

### 【第1班】（担当：小久保、越智）

参加者が5人のうち4人が初めてで、しかも地元の方が3人という班だった。この船越堤公園にはよく訪れている人も多かったが、今回のように観察会で植物の詳しい説明を聞くのは初めて、ということだった。桜が満開でいきおい皆さんそちらに目が行くが、まずは「超地味」なケヤキの花をみてもらった。手が届かないのでストックで指し示しながら、「これこれ、この小さなイボみたいに並んでいるのが雄花です」と言っても、皆さんなかなかそれとは判らない。資料の図と見比べてもらいつつ、「花卉のない雄しべだけの花なんです」という説明でようやく得心がゆく、そんな観察だった。

そしていよいよ桜だ。代表的な4種の見分け方について説明、ルーペで萼筒の膨らみや毛の有無の違いなどを見てもらった。エドヒガンについてはあまり馴染みがない方が多かったようだが、枝垂れ桜の多くがエドヒガンであること、寿命が長く名木と言われるような桜の古木にはエドヒガンが多いこと、などを聞いてとりわけ印象を新たにされたようだ。「桜が見分けられるようになって嬉しい」と喜んでいる方もおられた。「覚えることが多すぎて、とても覚えきれない」とこぼしながらも、「いつも来ているこの公園をこんなにじっくりと見たのは初めて」と嬉しそうに話していたのが、印象に残った。

（小久保 記）

## [第2班] (担当：杉山、矢下)

2班は、何時も参加してくださるメンバーなので、ちょっと専門的な植物用語も説明しつつ進めた。丁度、花の時期を迎えているケヤキ、アカシデ、クヌギ、が雄花、雌花を付けているので観察してもらい、雌雄異化同株について説明した。レンギョウ、シナレンギョウの見分け方を説明し、おまけに4月2日が詩人、高村光太郎の命日で「連翹忌」と言われることも付け加えた。イロハカエデでは、雄花、雌花が見られたが、特に雌花に特徴的な翼が付いているのが確認できたので喜んでいただけた。コブシでは、平家の落ち武者伝説の悲話を紹介した。近くにツクシとスギナが顔をだしていたので、葉はどれか質問してみた。同時にスギナの栄養価や薬効について説明したが、その利用価値の高さに驚いておられた。今回は、美しい花や樹形の鑑賞目的等、人の尺度で植えられた樹木達が、植えられた後どうなったか、公園にある様々な樹木の症状や原因等を樹木の目線から見て説明した。(杉山 記)

広葉樹の枝が斜上する訳、大径樹の太い枝が何故下垂するのか、地上に達した枝はどうなるのか、などを枝伐採後の腐朽の進み具合と腐朽が進みにくい伐採<バークリッジ剪定法>の方法等、実際の樹例で説明した。帰路、池の畔に腐朽が進んだ幹から勢いの良い枝が出て、その不定根が腐朽した幹の中を貫通し、更に地上に達して花が咲いている染井吉野があった。桜にとっては立地不適の条件下に植栽されても、なんとか生き残ろうとする樹木の生命力の旺盛さを学んでもらった。(矢下 記、(要点))

## [第3班] (担当：小嶋、高橋)

3班のメンバーは、地元清水の方と藤枝からのご夫婦、葵区からの常連さんの4人だった。まず管理棟の横にある椿を見てもらったが、花の芯の中に又花卉があり珍しいと感心しておられた。主な桜の種類では、ソメイヨシノ、エドヒガン、オオシマザクラ、ヤマザクラなどが観られた。また、すっかり葉桜となってしまったカワズザクラには既に実が付いていた。サクラでも咲く時期が色々であることを説明した。頂上では富士山と桜のコラボを観たが、残念ながら青空でなく背景の雲に紛れてはっきりとは見えない。そんな富士山だったが、背景が青をイメージしながら見てもらった。

また、皆さん清水港に停泊中の豪華客船を発見してその大きさに感激していた。他にも星の広場辺りで天空を悠々と飛ぶオオタカを発見したり、ラクウショウの気根を観て五百羅漢のようだねと感心したりしておられた。皆さんに新しい発見や春爛漫の桜を堪能して喜んで頂き、よかった、よかった... (小嶋 記)

## [第4班] (担当：佐野、青野)

4班は男性2人、女性2人、いずれも地元からの参加者だった。観察を始める前に、「今日(3月27日)は何の日かわかりますか?」と尋ねると、誰からも返答がない。答えは「さくらの日」。由来は、3(さ)×9(く)=27といった語呂合わせで、「日本さくらの会」が平成4年に制定した。このように解説すると「なるほどねー。」と納得していただけた。

観察を始めると、ソメイヨシノ、シダレザクラ、オオシマザクラ、ヤマザクラ等、色々な「サクラ」が出迎えてくれた。そこで、ソメイヨシノは花が咲いてから葉が出ること、エドヒガン系のシダレザクラは萼筒が膨らんでいること、オオシマザクラの大きな白い花卉と鮮やかな緑の葉が同時に出て調和すること、ヤマザクラは葉が赤みを帯びていること等を解説し、それぞれの特徴を知ってもらった。ソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオシマザクラが並んで咲いている場所もあったので、見比べてもらうとその

違いがはっきりと判った。タブノキ、シラカシ、クスノキ、ケヤキを見ながら広場に出ると、タンポポが沢山咲いていた。タンポポの花の特徴や繁殖について解説すると、その巧みな生き残り戦略に驚いていた。木々の若葉の芽吹きを楽しみながら、足元に目をやると、スイセン、スノーフレーク、ハナニラ等のかわいらしい花達が咲いていた。ラクウショウ、コバノミツバツツジ、クヌギを観察しながら、途中の東屋でしばし休憩。近くに枯れそうなソメイヨシノがあり、腐朽したウロの内側から根が伸びていた。サクラはこのように腐朽した部位から不定根を出し、周りの健全な幹から栄養を吸収する特徴があることを解説した。

足元に注意しながら、急な階段を下ると、池にはキンクロハジロ、オオバンが湖面をゆっくり泳いでいた。最後に、これらの水鳥を観察してもらい終了した。今回はサクラをメインに観察してもらったが、色々な種類のサクラの特徴を知ることができてよかったとの感想をいただいた。（佐野 記）

#### **[第5班]**（担当：大石、中川）

サクラも見事であったが、他の草木も色々な様相を見せていた。歩道沿いの生垣の中から沢山のアケビの蔓が伸びていたが、すべて先の部分が切り取られていた。「なんでこんなことになっているのだろう？」と尋ねてみたが、返事は返ってこなかった。これは、「アケビの蔓は山菜として食べられるので、採られたためだろう」と、説明した。道端にはスマレの花も咲きだしていた。通常の「スマレ」なのか、似ている「ノジスマレ」なのか議論になった。ルーペを使って皆で調べたところ、葉の柄に翼があって花の側弁には毛があったことで、ノジスマレではなく、通常のスマレと判った。また、花の色がスマレに似て美しいキラソウも咲いていた。別名は「ジゴクノカマノフタ」だが、これは冥土（地獄）へ落ちるのを塞ぐ程薬効があるからそう呼ばれるのだ由。付近には白い小さな花を沢山付けたセントウソウも咲いていた。

広場の桜並木にはソメイヨシノがほぼ満開の状態で見事だった。散策の途中では、白い花と緑の葉が目立つオオシマザクラ、そして紅褐色の葉と一緒に花が出るヤマザクラについて、その特徴などを説明した。ひときわ高く伸びていたクヌギの木には沢山の雄花が垂れ下がっていたが、木の根元にはすでに役目を終えた雄花も沢山落ちていた。そしてなかなか見ることのできないアカシデ、コナラの雄花と雌花も観察することができた。（大石 記）

スナップ写真



開始前のオリエンテーション



コナラの花を見る



サクラの下でひと休み



里帰り桜（アケボノ）を見る



アカシデの雄花



アカシデの雌花

以上